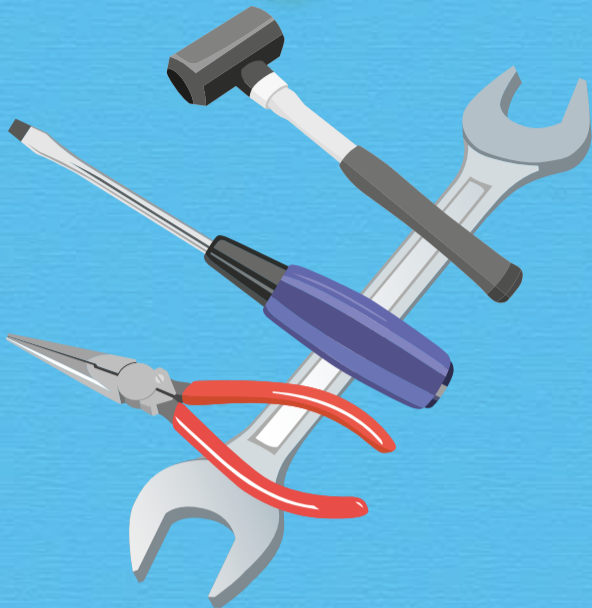


DIY



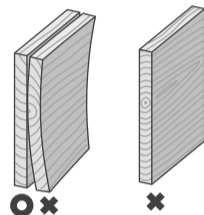
■主な木材の種類

ムク材	集成材						
<table border="1"> <tr> <td>パイン材</td> <td>マツ科マツ属の木材。木目が美しく、また材質が軟らかいため切ったり、クギを打ったりの加工がしやすい。強度はあるものの、割れやすく反りやすい欠点がある。</td> </tr> <tr> <td>スギ材</td> <td>軟らかくて加工がしやすく、針葉樹のわりにはゆがみが少ない。ただ、木肌はパイン材に比べて粗い。</td> </tr> <tr> <td>ラワン材</td> <td>東南アジア原産の広葉樹。針葉樹のような木目はほとんどなく色が濃い。針葉樹に比べて木質が硬いのでその分加工がしにくい。割れ、反りの心配はほとんどない。</td> </tr> </table>	パイン材	マツ科マツ属の木材。木目が美しく、また材質が軟らかいため切ったり、クギを打ったりの加工がしやすい。強度はあるものの、割れやすく反りやすい欠点がある。	スギ材	軟らかくて加工がしやすく、針葉樹のわりにはゆがみが少ない。ただ、木肌はパイン材に比べて粗い。	ラワン材	東南アジア原産の広葉樹。針葉樹のような木目はほとんどなく色が濃い。針葉樹に比べて木質が硬いのでその分加工がしにくい。割れ、反りの心配はほとんどない。	十分に乾燥させた木片を接着させた板。木目の美しさではムク板にかなわないが、反りやゆがみが少なく、サイズが豊富で安価なので家具など、いろいろな目的に使える。
パイン材	マツ科マツ属の木材。木目が美しく、また材質が軟らかいため切ったり、クギを打ったりの加工がしやすい。強度はあるものの、割れやすく反りやすい欠点がある。						
スギ材	軟らかくて加工がしやすく、針葉樹のわりにはゆがみが少ない。ただ、木肌はパイン材に比べて粗い。						
ラワン材	東南アジア原産の広葉樹。針葉樹のような木目はほとんどなく色が濃い。針葉樹に比べて木質が硬いのでその分加工がしにくい。割れ、反りの心配はほとんどない。						
ランバーコア	集成材の表面に化粧板を貼ったもの。表面の木目を生かしたい場合は集成材、表面を塗装する場合はランバーコアといったように使い分けるとよい。						
合板	板を貼り合わせて加工したもので、厚さも様々なタイプが揃っている。						

●ムク板の選び方

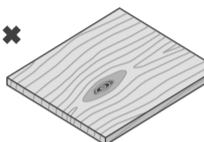
《反っていないものを選ぶ》

断面の木口を見て反っていないかどうかチェックを。板を1枚見てもよくわからないが、2枚比べて見るとどちらが反っているかよくわかる。また、木口に年輪の中心があるものは、あとで曲がってくる可能性が高いので、避けたほうが無難。



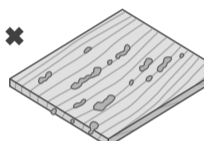
《節が黒くなっているものは避ける》

節が多いものはできるだけ避けるように。特に節が真っ黒になっているもの、節のまわりに樹皮がついているものは後で穴があくことがあるので要注意。



《表面にヤニがついているものは避ける》

パインなどはヤニが多いのが特徴だが、それが表面にベタついているようなものは避けること。ヤニつぼという節が斜めに伸びたような部分があるものも避けたほうがよい。

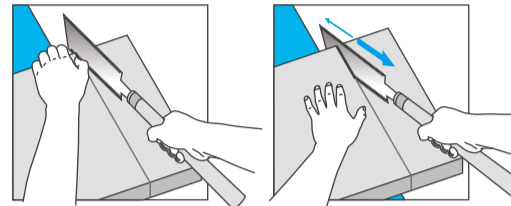


木工工作の楽しみ方

One Point Advice

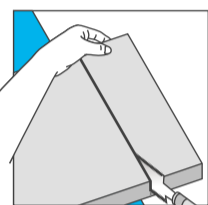
ノコギリの使い方

ノコギリで木を切る場合は、必ず線を引いてから。厚みの分もきちんと線を引いておかないと、斜めに曲がって切れてしまうこともあるので注意しましょう。また、木目に垂直に切る場合は横引き刃、木目に平行に切る場合は、縦引き刃を使います。



①線の外側に親指の爪を立てて刃を当て、ノコギリを寝かせて小刻みに切り始める。

②その後、ノコギリを少し立てて刃全体を使って切り始める。このとき、引くときだけに力を入れる。



③切り終える際は、木の切り口を折らないように落とす木に片手を添えること。

木工工作の楽しみ方

好みや、すき間にちょうど合うサイズの家具を見つけるのはたいへん。そんな時、自分で家具が作れたらどんなにいいかと思えます。基礎のポイントを押さえて、順序よく作業すれば、手作り家具もそんなに難しくありません。ここでは、市販のすのこ、カラーボックスを使って、初心者でも簡単にできる家具などの作り方を紹介します。

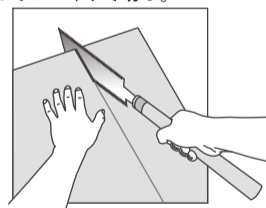
すのこを使った本箱

用意するもの

- 木製のこ（板が偶数のもの） 3枚
- 厚さ4 のベニア板（すのこの長辺×長辺）
- 丸クギ 5cmを24本、1.5cmを60本
- 木工用接着剤
- ノコギリ
- カナヅチ
- 四つ目ギリ
- サシガネ

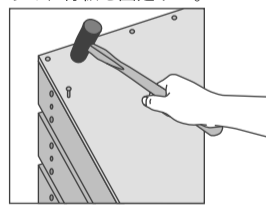
5

背板を取り付ける。まず、ベニア板に外枠の大きさに合わせて線を引き、それに合わせてノコギリで切る。



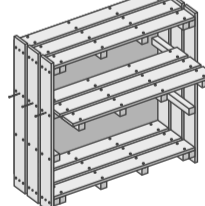
6

すのこの背板をつける面に木工用接着剤をつけて、背板を曲がらないように置き、1.5cmのクギを10cm間隔に打って、背板を固定する。



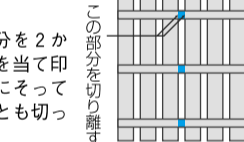
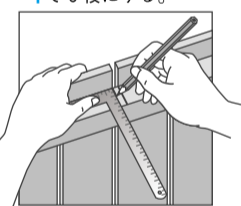
7

側板のゲタの足にのせるように棚板を2枚入れる。このままでもよいが、棚を固定したい場合は、側面から5cmのクギで3カ所止めるとよい。この場合も、最初にキリで穴をあけておくと楽。



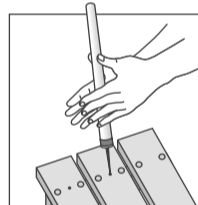
1

すのこのゲタの中央部分を2カ所切り離す。サシガネを当て印をつけてから、その線にそってノコギリで切る。3枚とも切って6枚にする。



2

6枚のうちの4枚で外枠を組む。まず、側板にするすのこの2枚の各板の端の真ん中にクギを打つための穴を四つ目ギリであける。こうすると、クギ打ちが楽にできる。

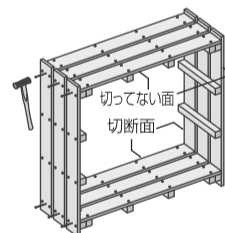
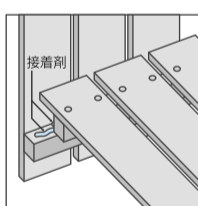


穴をあける位置



4

2であけたキリの穴に5cmのクギを差し込んでカナヅチで打ち込み、底板と側板のゲタの重なり部分を固定する。天板を同様に、接着剤をつけてからクギ打ちをする。



完成

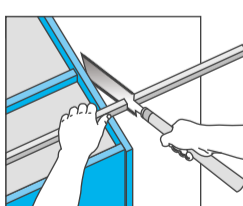
カラーボックスを使った収納ベンチ

用意するもの

- カラーボックス（60cm幅の3段タイプ）
- 1cm角の模型材（約58cmを8本とれる長さ）
- ノコギリ
- ゼリー状瞬間接着剤
- 集成材あるいはランバーコア（カラーボックスのサイズに合わせる）
- サンドペーパー（240番）
- カナヅチ
- 丸クギ 1.5cmを4本
- 床用水性ニス
- スジカイバケ

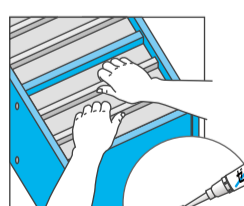
1

カラーボックスを組み立てたあと、裏返して置く。カラーボックスの背板は薄い合板なので補強しておくこと。1cm角の模型材を裏面の内幅に合わせて印をつけてノコギリで切る。



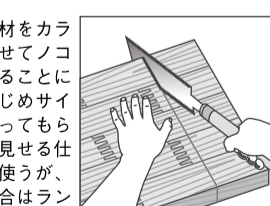
2

切った模型材を接着剤でつける。このように板が薄くクギが使えない場合は、接着剤を使って固定するのも方法。ゼリー状瞬間接着剤なら木でもよく接着し、1分くらい押さえおけば固まるので、簡単な木工工作に便利。



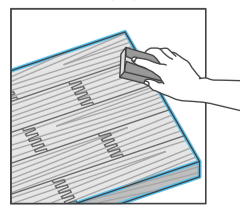
3

ボックスのフタにする集成材をカラーボックスのサイズに合わせてノコギリで切る。ノコギリで切ることには自信がない場合は、あらかじめサイズを計っておいてお店で切ってもらおうとよい。ここでは木目を見せる仕上がりにするため集成材を使うが、ペイント仕上げにしたい場合はランバーコアがお勧め。



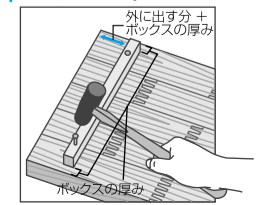
4

集成材（あるいはランバーコア）の角にサンドペーパーをかけて丸く仕上げる。その他、ザラザラしている面があったらそこにもかけて滑らかにする。このとき、サンドペーパーを木片にまいて作業すると楽。



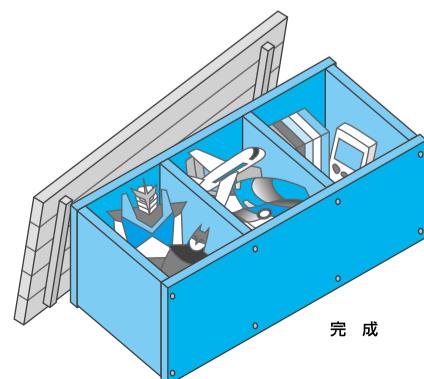
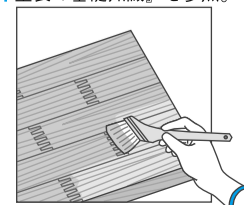
5

フタがずれるのをふせぐため、板の裏側に模型材を取り付ける。位置を確認してから、ゼリー状瞬間接着剤でとめて、クギ打ちする。



6

板を塗装する。集成材の場合は木目をいかに床用水性ニスを、ランバーコアを使う場合は水性つやあり塗料を使うとよい。塗装の方法は『No.35 塗装の基礎知識』を参照。



完成